

ひとから真に求められる『心のケア』を考えます

べとれへむの風

発行：べとれへむの園病院 隔月15日発行 編集：広報委員会
住所：東京都清瀬市梅園三丁目14番72号 ☎042-491-2525 URL: <http://www.betohp.net>



No.130

新年度特別対談『病院とカトリック精神の“交差点”』

(語り) 東京教区司祭 富田聡神父様・べとれへむの園病院 青木信彦院長
(収録日・場所) 2025年4月11日(金) べとれへむの園病院 中庭にて



(青木院長：以下A)

神父様、本日はお忙しいところありがとうございます。

おかげさまで現在病院は非常に穏やかな運営ができており

ます。病院と言いますと一般の方は「急性期」を思い浮かべがちですが、当院は「慢性期」の病院ですので、どちらかと言うと人生の最後を“軟着陸”して頂く、そのような考え方で運営しております。私たち俗人は「死」についてタブー視する傾向があります。今日は神父様のお話を伺って、その辺りをもう少しきちんと考えたいと思います。

(富田神父：以下T)

テーマとしては、「病院とカトリック精神の交差点」という観点から考えてみたいと思います。

つまり、人間は「死」だけでは終わらない、という“まなざし”です。医療という立場から考えるともちろん死なないようにするのが第一ですけど、死が近づいている方の場合、人間は「死」だけでは終わらない、そのことが今を生きる希望につながる、そう考えます。人が神を必要とするのはこの「死」が見えてきた時で、むしろ健康で元気なうちは必要とされないのでしょう。そういう意味では終わりが見えてから宗教の領域が出て来るのだと思います。

(A) なるほど確かにそうですね。私たちは突然亡くなるということは少なく、徐々に具合が悪くなって、2、3年かけて亡くなる方が多いです。そして寝たきりに近いかたちになってきた時そう感じるか、そこが大事なのだと思います。

(T) 私は神父としてキリスト教の話をしますけれど、必ずしも患者さんが信者さんとは限らない。ですから私の話がその方にとってどれほどの慰めになるのかはわからないのです。そこに難しさがあります。ただ言えるのは、そういう不安とか苦しみとかが意味のないものではない、そこを信じる事が出来れば前を向いて生きていけるのだと思います。

(A) 人は例外なく皆死ぬわけですが、その橋渡しと言うか、どのような橋渡しが出来るのが良いか、医師としてその答えを出すのは難しいと感じます。これはやはり神父様のような宗教者の領域なのだと思います。

(T) カトリックの面白いところは、いのちではなく魂を優先させるというか、極端に言えば「死んでもO.K.」というところがあると思います。だからカトリックは「どう死ぬか」が大事で、一方医療は「どう生きるか」が大事なのだと思います。だから終末期の医療を考えた時、どのようにしてカトリックと医療が重なってくるのだろう、と考えます。私も正直分らないのですが…。

(A) やはり死ぬのは「肉体」であって、「私」ではない、ただ肉体が痛い、苦しいというのは避けたいと思います。

(T) 「私のカラダ＝肉体」と「私」が違うというのは難しいですよね。私のカラダも私なんですよ。

私たちは痛みを感じた時、カラダの痛みだけとは割り切れないものもある。それゆえにカラダの尊厳があって、だからカトリックの神父さんが病院を作ったというのもそういう魂も大事だけれどカラダも大事、と考えられたからではないかと思います。そう考えると医療と宗教は決して矛盾するものではない。ただ力点の置き方によってそれぞれの良さが出たり出なかったりということはあると思います。

(※次号につづく)





柳町氏の絵画展の開催報告

入院患者さん
の感想

柳町 洋さんの絵画展 感想文

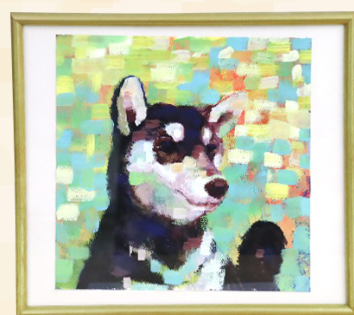
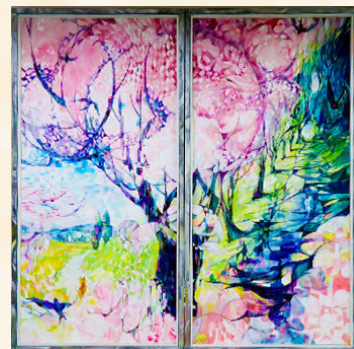
先日、ギャラリー・マルゴで開かれた 柳町 洋さんの絵画展に行きました。病院の会議室に車椅子を押してもらって入ると 壁いっぱいには飾ってあるたくさんの絵の大きさ と迫りに圧倒されました。そんな絵から伝わってくる力強さや、大胆な色使いからの アートが 素晴らしかったです。風景画では、まるでそこに自分がいるような錯覚するようでして、キーンや 象の動物の重さまでが 感じられる。インパクトのある作品の数々でした。入院生活を送る中でのこれらの絵との出会いは、生きることへの見方を 感じさせていただきましたし、たとえ病を持っていても 大きな希望を 与えて くださる。深い感動の作品でした。何気ない会議室が 素晴らしい絵によって 囲まれ、静かで、温かみのある空間に変わっていました。ごらんになった 他の方々もきっと 元気もらったのではないのでしょうか。

すべての絵の中に 犬が何匹いるのかを 数えるのも楽しかったです。1匹いましたね。部屋を出る時 その中の1匹が シンパを ぶっているのを見たような気がするんですけど...

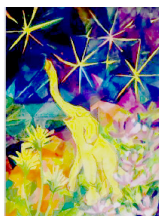
本当に 素晴らしい絵をありがとうございました。この出会いに感謝いたします。

「マルゴの世界」

病棟の廊下を抜けるとそこは春の風景
いつもの会議室が ギャラリーマルゴの世界となった
クラシックの音の流れの中 ぽつぽつと訪れる人
ゆっくりみる さらっとみる 話しながらみる
そうなんだ 好きでいいんだ
春夏秋冬の絵画の光が 病院の空気に溶けて 私の身体を通り抜けた
看護部長 窪田 由佳



花ときりん



星空とやう



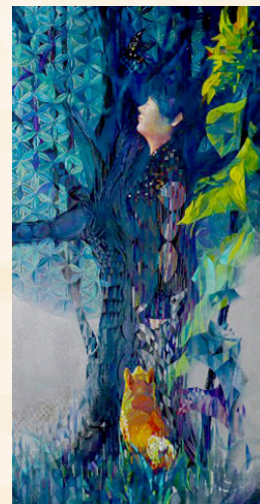
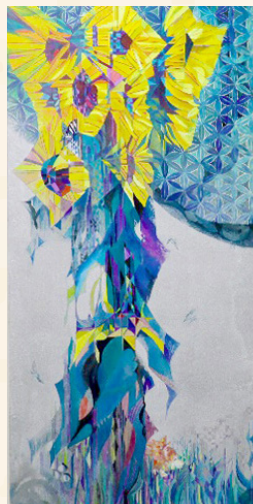
みだりのやう



柳町洋氏 絵画展

〈作者より〉

たくさんの方に見て頂き嬉しく思います。新作・田んぼの風景くさかおるを描き終えました。



新企画
『コラム“病棟の日常”
パステル画ボランティア
さんの紹介』

みなさんの描く絵に 癒されて…

パステル画ボランティア 椎谷 郁子

2024年の12月から、パステル画のボランティアをさせていただいております。病院で絵を描くのは初めての経験です。

階段や通路にはたくさんの絵が飾られており、お部屋へ伺うまでに私の呼吸が整うのを感じます。いつも3人の方と絵を描くのですが、たった6色で描いているとは思えないような、その方の人生の深さやこれまでの足跡が美しい色合いとなって現れます。はじめは何をしているのかと不思議そうな顔をされていた方も、出来上がったご自身の作品を見て笑顔になられるのが、私の癒しにもつながっています。職員のみなさんもお手伝いくださったりお声がけしていただき感謝しています。



看護部新ユニフォーム紹介

私は新ユニフォームの選定の取りまとめをさせて頂きました。

選定までには、決選投票となるなど思いがけない場面もありましたが、病棟に華やかな彩りが添えられた素敵な制服となりました。併せて看護ブログにも新ユニフォームのほか日々の活動や行事などブログを随時更新しています。ぜひ、ご覧ください。

事務員 M.N



看護ブログ
QRコード



看護師ユニフォーム



ケアワーカーユニフォーム

新年度より、新しい制服になりました。1年前より色々なタイプの制服を取り寄せ、投票を行い、上着はポロシャツとVネックのもの2種類に決まりました。ズボンは通常のものとは違う、裾が細くなったタイプを取り寄せてみたところ好評で、女子のズボンに採用となりました。面白いことに1階はVネック派が多く、2階はポロシャツ派が多数と好みが分かれ、病棟の個性の違いなのかなと感じました。暑がりの私は憧れのVネック派です。これで今年の猛暑も乗り切れそうです。

ケアワーカー 青木 美由紀

5月の行事食 「端午の節句 (こどもの日)」

栄養科
行事食紹介

5月の行事食で筍ご飯を提供しました。

その時々で旬の食材を使い食事を提供しています。今回は春の食材として「筍」を使用しました。筍には脳を活性化するとされるチロシン(筍に付いている白い結晶)、体の余分な水分を排出する働きをもつカリウム、便秘改善や腸内環境を整える不溶性食物繊維など多くの栄養素が含まれます。

旬な食材は美味しくて栄養価が高い物が多いです。旬な食材を取り入れた行事食を提供することで患者様に少しでも季節を感じていただけたら嬉しいです。

栄養科

献立

筍ご飯、エビフライ、豚肉と大根の味噌煮、とろろ汁、こどもの日ゼリー



ひふの話

その
82

市川 雅子(皮膚科医師)

ケロイド

今回はケロイドのお話です。厳密に言う、一般の方が言う「ケロイド」には大きく分けて2種類あり、真性のケロイドと肥厚性瘢痕があります。皮膚の傷は、傷が表皮までの浅い傷であれば痕(あと)も残さず治りますが、真皮からさらに深い部位まで傷を受けると「瘢痕」という状態になります。その瘢痕の多くは、当初は赤くても時間経過とともに白っぽくて少しテカるような痕(成熟瘢痕と言います)になりますが、いろいろな要因によって白っぽい痕にならず、赤く盛り上がった痕になることがあります。傷の範囲に一致して赤く盛り上がっているものを肥厚性瘢痕、傷の範囲を超えて大きく盛り上がった赤い痕(かゆかったり痛かったりします)になったものをケロイドと言います。ケロイドも肥厚性瘢痕も、皮膚の傷の部分



が引っ張られることでできてきます。皮膚が引っ張られる部位とは、前胸部(呼吸で絶えず動いています)、そして、首、肩甲骨あたり～上腕～肘、膝～大腿部などのよく動く部位です。また、腹部などのこすれやすい部位も要注意です。そしてケロイドや肥厚性瘢痕ができる場所では“炎症”が続いていることがわかっています。ですから、傷ができた時、手術で切ったりした時は、傷が引っ張られないようにテープで固定したり圧迫したりします。また、炎症が長引かないように、過度の飲酒や激しい運動、長時間の入浴なども避けましょう。しかし、そうやってもできてしまう人がいます。ケロイド体質とも呼ばれる生まれつきの素因、高血圧、そして、妊娠や思春期(性ホルモンが関与)などによるものです。ただ、このような場合でも、早めに治療を始めて、テーピングなどのケア、悪化要因を避けるなどをおこなうことで、ある程度のコントロールは可能です。治療としては、副腎皮質ホルモン剤の外用剤・テープ・局所注射、ヘパリン類似物質外用剤、トラニラストや柴苓湯などの内服薬、放射線、手術などがありますが、患部や患者さんの状態にあわせて選択します。治療には時間がかかりますが、悩んでいる方は皮膚科または形成外科にご相談下さい。

お知らせ

6月の健康公開講座

参加
無料

日時：令和7年6月5日(木)14時～
講師：病院長 青木 信彦
会場：病院2F会議室

～人生の軟着陸(なんちゃくりく)～

数え切れない“死”と向かい合ってきた医師の確信

- 苦しむことのない人生の終わり方
- 皆から「良かったね」と言ってもらえる人生の終わり方



- 第1部 あおき院長の講演
20分(濃厚な)
- 第2部 皆さんからの質問
10分
- 合計 30分程度

ベトcafé 再開のお知らせ

開催日：令和7年 5/21、6/18、7/16、8/20
毎月第3水曜日 午後14時～午後16時
場所：2F会議室

美味しい飲み物
お菓子(クッキー)



参加費

¥100(クッキー+飲み物)

- | | |
|----------|---------|
| ・ コーヒー | ・ ミルクティ |
| ・ エスプレッソ | ・ ふわラテ |
| ・ カフェオレ | ・ 緑茶 |
| ・ 紅茶 | ・ 昆布茶 |
| ・ レモンティ | ・ 梅昆布茶 |

編集後記

先日熊本に住む弟家族が遊びに来てくれました。

初めましての5歳になる姪っ子は、ひとつひとつのしぐさが愛おしく、短い期間でしたがとても幸せなひとときを過ごせました。小さな口から飛び出す熊本弁は、ただただ可愛いらしかったです。

お土産の熊本名物馬刺しは大変美味しかったです！

今度は私が姪っ子に会いに、熊本へ行きたいと思います。

(H・W)

